

白井市通学区域審議会 会議録

日 時	平成23年1月25日(火)午後1時から3時まで
場 所	市役所 6階 第一委員会室
出席者	國島千恵子会長 竹内正一委員(会長代理) 岡野ユカリ委員 鈴木由梨香委員 伊藤久男委員 青木清一委員 松井利一委員 田原浩忠委員 山本香緒利委員 中村順子委員 米山一幸教育長 事務局
1 開会 2 委嘱状交付 3 教育長あいさつ 4 審議会会長選出 國島委員を会長に選出した。 (10分休憩) 5 議題 (1)小中学校の現状及び推計について (2)大山口小学校区の人口の増加に伴う通学区域の見直しについて (3)その他 事務局 (小中学校の現状及び推計について説明。) 現状は、大山口小学校の児童数が平成24年度以降1000人を超え、3教室不足、平成27年度は1088名となり6教室不足、七次台小学校が平成23、24年度から教室は満室となり、平成25年度から教室が不足すると推計している。 大山口中学校は、入学する児童数の増加に伴い平成28年度から教室が不足してくることが見込まれる。 こうしたことから、大山口小学校区の通学区域についてご審議いただきたい。 委員 資料によると、白井第三小学校も教室が不足するようだが、白井第三小学校も含めて諮問するべきでは？ 教育長 推計では白井第三小学校も教室不足のデータが出ているが、今回は、緊急として大山口小学校区の諮問を行いたい。 委員 了承	

教育長

それでは大山口小学校区の児童増加に伴う学区変更について諮問したい。

委員 小学校区が変わったら、中学校区も変わるのか。

教育長 変更となる。

委員

いくつか案はあると思うが、事務局から何か案を上げてもらい、それを皮切りに議論すればよいと思うがどうか。

事務局

事務局案としては、西白井3、4丁目を、大山口小学区から七次台小学区に変更する案を提示したい。

平成25年度から西白井3、4丁目の児童を七次台小学校へ移した場合を想定した資料をお配りする（資料を各委員に配布）。

この学区変更により、大山口小学校が平成23年度は児童数900人で教室は満室、24年度は1005人で3教室足りなくなるが、平成25年度は300人程度七次台小学校へ移るため教室に余裕ができる。

七次台小学校は、平成23、24年度の教室は満室となるが、25年度に300名の大山口小学校からの児童を受け入れると8教室足りなくなり、平成28年度には12教室足りなくなる。

七次台小学校はこの変更に伴い、ピーク時で不足すると思われる12教室の増築を見込んでいる。

この学区変更により、中学校についてはピーク時の生徒数で、七次台中学校は平成31年度では537名18教室で満室状態、大山口中学校は平成30年度695名で1教室程度不足と推計される。

その他、字別年齢別人口と、今回の案について事前に保護者の皆様からご意見を募りまとめたもの、変更後の学区と予定されている通学路を案として地図に載せたので、併せてご覧いただきたい。

委員

地図の通学路について、大山口小学区の直線道路に比べ、かなり曲がっているが、遠くなるのではないか。

会長 この通学路は既存の道路か。

委員

西白井4丁目の児童は大山口小学校までの距離も2kmあり、低学年は1時間かかるため、朝7時には家を出ないといけない。

七次台小学校に変更された場合は、いったい何時に家を出ないといけないのか。

事務局

既存の道路を想定している。

実際に事務局が歩いてみたところ、距離は大山口小への距離と同じ2kmくらいであった。

委員

同じ2kmだとしても、人の目がある直線道路と人気のない細い道路では安全面に大きな差がある。安全面に問題がある以上、子どもを七次台小学校へ通わせることはできない。

委員

西白井4丁目は既に大山口小学校区と白井第二小学校区に分かれている。

白井第二小学校へ行くには国道16号を越えなければならないため、保護者としてはとても通わせられず、指定校変更せざるを得ない状況である。

また番地で学区を分けるのではなく、西白井4丁目全体で1学校区とすることはできないか。

教育長

審議会で答申していただければ、西白井4丁目全体で1学校区とすることについて検討することはできる。

通学路はほぼ同等の距離である。しかしさびしい道路で見渡しも悪いことは認識しており、教育委員会としては学区を変更したことにより事故や事件が起きてしまうことを恐れている。

距離的に変わらないとはいえ、安全面については通学路を整備していく必要があると認識している。

教育委員会から建設部局へ新しい道路の建設を強く要望していく。

七次台小学校については、スペース的に校舎の増築が十分可能であるため、予定されている大規模改修に伴い校舎の増築を検討しているところである。

現在七次台小学校は、空き教室の1室を学童保育所として使用しているが、来年は教室がいっぱいのため、児童家庭課との協議も予定。

会長

七次台小学校は、増加した児童を受け入れる手立てがあることが分かった。安全面については、見廻りを行う等保護者の協力でサポートできる部分もあるかと思うが、次回の会議でもう少し踏み込んで話し合うこととしたい。

委員

学校は適正な規模で、適正な教育が望ましい。しかしそのために安全面を犠牲にすることはできない。

委員

大山口小学校の現状はこのままにできない。
七次台小学校は、現在クラス数も児童数も少ないが、子ども達が増えることによって、新しいことが起こるのではないか。
子ども達が安全な状態で安心して学校生活を送れることが大切。

委員

大山口小学校は、子ども達が安全に通える学校であり、安全な通学路に慣れている。
保護者もこの問題は一緒に考えていきたいと思われる。保護者説明会を行うことはどうか。

委員

第一は通学路の安全面の確保だと思う。実際に歩いてみるとよいかもしいない。
また資料を見てみると、西白井3、4丁目を学区変更した場合、七次台小学校は当初から在籍していた児童より学区変更により入ってくる児童の方が多くなるようだ。
保護者中には転校によるいじめを懸念する声も上がっているが、大きな問題にならないかもしれない。
保護者に情報がいかないので、不安に思っている保護者もいると思う。保護者の心配を取り除くために、いくつかの疑問に対し説明をすればもっとスムーズに事が運ぶのでは。

教育長

今回の会議の内容を公表し、情報提供も行っていく予定。

委員

今回の学区変更が何のために必要なかわからないので、説明がほしい。

教育長

この会議でお配りした資料が見やすいものであれば、これを活用して保護者の皆様に情報提供していきたい。

委員

施設や数字での資料はわかりやすいが、メンタル面ではどうなるのか。子ども達へのメリットは。

委員

大山口小学校の現状は、児童数が多いため休み時間中の事故やけがも多い。クラスを2つに分けて少人数指導を行うにも、教室がないためTT方式による指導を行っている。
運動会では前の列がゴールしないうちに次の列を走らせたり、授業参観では廊下まで保護者が教室からはみ出し授業が見られない等、各行事の運営が困難。年度末に卒業式を控え、どう運営していくかが課題。

教育長

子ども達をどう伸ばしていくか、人数と規模だけの話ではなく、全体を見据えて考えたい。
学区の変更には、事前に学校どうしが交流する等十分な準備も必要。

会長

平成25年度から大山口小学校の通学区域を変更することについて、今回の会議では、通学路の安全性、子ども達のメンタル面に配慮した通学の特例等について、話し合いたいと思う。

教育長

年度末までに結論を出したい。
23年度から、施設の計画について国に要望したい。

事務局

次の日程は、2月13日(日)13時30分から行うことでよいか。

委員

実際に通学路予定道路を歩いてみては？イメージが湧きやすい。

事務局

2月13日に、会場を七次台小学校に移し、実際に歩いてみることにしたいがどうか。

委員全員が同意で一致。

閉会。